

# 日本画部門

審査員：竹内 浩一 先生

京都府出身 京都市右京区在住

1977年 第4回山種美術館賞展 大賞受賞  
1979年 第11回日展 特選受賞  
1991年 第4回京都美術文化賞 受賞  
1996年 第9回MOA美術館 岡田茂吉大賞展 大賞受賞  
2010年 京都市文化功労賞 受賞  
現在 一般財団法人日本中国文化交流協会 常任委員  
山種美術館 理事

## <総 評>

写生を大切にして描かれた作品が多かった。日常生活の心情がこまやかに表現されていた。日本画は写生を重んじてきた。写生は生命を写すと書く。今展にも対象の生命を写しながら、自分の存在をみつめた深い作品も目についた。



### ■ 市展賞 ■

「花時」 北村 妙子

水辺に淡い一面の桜花が柔かいリズムを奏でている。漂う空気からは無常さえ感じさせてくれる。



■ 特選 ■ <彦根市教育委員会 教育長賞>  
「兆し」 岡村 康臣

何の木だろう、写実をおさえ、感覚のある筆使いで木の中に漂う木霊を探っているように見える。季の移ろいにみる兆しは、作者の心境のように感じた。



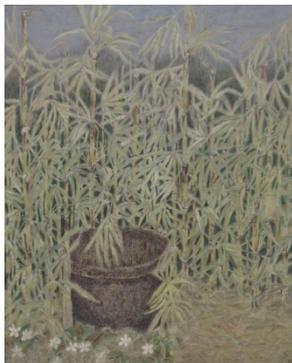
■ 特選 ■ <毎日新聞社賞>  
「たけのこ」 曽我 光博

瑞々しい竹の子が新聞紙の上に数本置かれている。春の季のシーンは描き手の喜びなのだろう。温かい色合にも魅かれる。



■ 特選 ■ <彦根市議会議長賞>  
「憩う」 熊谷 滋美

鳩二羽と花を組み合わせ、鮮度のいい色合いからは、協奏曲の一小節のような美しいシーンを感じさせる。



■ 無鑑査奨励賞 ■  
「時代を見た古井戸」 谷村 純子

今をみつめ心の暦を回想しているのだろうか。帰去来の心境は次元が高い。何より笹のマチエールは個性的で魅力がある。

# 日本画部門

展示場所：第1・2研修室（メッセホール棟 2階）

展示No	賞	題 名	氏 名	備 考
1		川 縁 り	小 泉 英 子	
2		新 緑	松 本 喜 美	
3		春 う ら ら	立 江 恵 美	無 鑑 査
4		春 の 葉 牡 丹	長 崎 典 子	
5		葦	荒 居 年 子	
6		静 寂	本 田 充	
7		街	いとうけいろう	
8	佳 作 特 選	ヨ シ 原 の 蘆 筍	山 田 政 一	彦根市議会 議長賞
9		憩 う	熊 谷 滋 美	
10		お ひ る ね	中 山 ます江	
11		肴	寺 村 や 糸	
12		そ ら 豆 の 花	平 松 越	
13		春 景	澤 邊 雅 子	
14		茅 葺 の 里	杉 本 ミサ卫	
15		春 樹	北 村 幸 子	
16		水 仙	杉 本 恵 美 子	
17		芹 川 堤	大 橋 宏	
18	恵 み の 春	大 村 千 代 子		
19	つ た も み じ	成 内 節 子		
20	陽 の 恵 み	早 崎 清 美		
21		ジャーマン・アイリス	武 藤 愛 子	
22		沈 丁 花	北 村 登 久	
23	特 選 特 選 市 展 賞	た け の こ	曾 我 光 博	毎 日 新 聞 社 賞
24		兆 し	岡 村 康 臣	彦 根 市 教 育 委 員 会 教 育 長 賞
25		花 時	北 村 妙 子	
26		ホ タ ル ブ ク ロ	松 居 直 子	
27		芹 堤 に 伸 び る	織 田 敦 子	
28		蔵	牧 野 昌 代	
29		青 鷺	今 居 桂 子	
30		宮 の 一 隅	小 島 充 子	

展示No	賞	題 名	氏 名	備 考
31		つ る バ ラ	田 中 協 子	
32		瞑 想 道 場	小 澤 弘	
33		開 花 を 待 つ	山 岡 勝	
34		秋 の 夕 暮	丸 山 リツ子	
35		古 木 ( 桜 )	高 田 昭 子	
36		湯 葉 処	竹 内 歌 子	
37		落 椿	滝 沢 千 代 子	
38		新 玉 ね ぎ	澤 淑 子	
39		冬 枯 の 季	長 谷 川 み よ	
40	佳 作	蓮	馬 場 初 代	
41		山 牛 蒡	志 摩 ま ゆ み	
42		ゆ き の し た	石 原 み ち 子	
43		刻 を 思 う	深 田 澄 江	無 鑑 査
44	無鑑査奨励賞	時 代 を 見 た 古 井 戸	谷 村 純 子	無 鑑 査
45		舞	竹 内 浩 一	審 査 員
46		朝 迎 ( 伊 吹 ・ 天 の 川 )	寺 村 晴 雄	委 員
47		止 っ た 時 間	眞 野 康 洸	委 員

